

## 目標達成計画

作成日: 令和6年 1月 5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	定期的な水害、火災訓練を行っているが、自然災害の避難訓練に関しては、日中の職員の人員確保などが困難で、訓練回数や職員への避難誘導訓練が徹底できていない状況がある。また、地域との協力体制の確立や共同訓練なども数年実施できていない。水害における垂直訓練を行っているが、全職員が情報収集から避難誘導までの流れについて把握する事、その都度状態が変化する入居者に合わせた安全な誘導や必要な物品等の準備をスムーズに行えるよう、特に勤務者が少ない夜間帯を想定した訓練を行っていく必要がある。	①自然災害の訓練において一連の流れを全職員が把握・実践できるようにする。 ②夜間体制での訓練を繰り返し行い、少人数での初動避難が確実にいえるようにする。 ③地域住民へ避難訓練への協力体制作りができるようにする。	①全職員が災害が発生する前からの気象状況や行政からの情報収集の方法などを各自がきちんと覚え、避難誘導開始の判断ができるようにする。また、施設周囲の状況確認の方法や非常時の持ち出し物品の場所や数量などを各自が把握できるように一連の流れをカンファレンス等で話し合い、不明な点がないように徹底する。 ②大雨や地震などで施設周囲の状況確認が困難な夜間体制では勤務者も少なく、初動の遅れが危険を招きかねないため、夜間体制での訓練回数を増やして行っていく。 ③施設内待機ができず避難所への移動が必要な場合は、地域住民の協力が必要なため運営推進会議などを利用し、町内会への依頼や定期的に施設内の様子をみていただくなどの機会を設けていく。	24ヶ月
2	33	入居時には重度化や看取りの指針について説明を行い、同意を得ている。また、急変時だけではなく年齢や持病に添った終末期のケアについて、ご家族から早めに希望を聞き取り、随時話し合いを行っていくようにしているが、現在までに施設での看取りの事例はなく終末期ケアが未経験の職員も多い。しかし今後は施設での看取りも多くなってくると思われるため、終末期ケアについての研修を定期的に行っていく必要がある。	①ご家族を含めた看取り支援体制について理解する ②介護技術を含めた終末期ケアについて学習する	①入居時に説明する「重度化した場合における(看取り)指針」の内容について、全職員が本人やご家族の希望に沿った看取り介護(施設内における看取り介護の具体的支援内容や医療連携体制など)について理解できるように研修を行う。 ②終末期ケアについて「身体的ケア」や「精神的ケア」「緩和ケア」に加え、ご家族に対しての支援について施設主治医や看護師の助言等を含め学習を行っていく。	24ヶ月